

本当の新婚生活は
おじさんの家で
始まっています♡

DOJIN
R18
ADULT ONLY



さあ、
遠慮しないで
入って。



ふふ、sさんったら。
まるで自分の家みたいにお
つしやいますのね。

うん。
亡くなった父の代わりに
僕を見守ってくれた
方だからね。

まったく…
本当の家族でもないのに
面倒くさいわ。

sさんの大切な
ご縁ですもの。
お父様にお会いするような
気持ちで伺いますわ。

でも、
これくらい
気合い入れたら、
問題ないはずね。



あ…うん、
そうだね。

来たのか。



キーン

えっ？

この人：
どこかで…



久しぶり。
sは
相変わらずだな。

うわっ、
見ない間に
ちよっと
老けたんじゃない？

失礼な
口のきき方も
相変わらずだな。



まさか、
あの時の！？



ゴムなしで
いくら？

確かに、
あの頃よりは
老けてるけど…
あのホクロはそのまま…

そうすると、
高くつきますけど…

かまわんよ

君の方から
呼んでもらえて
嬉しいよ。

おじさん…
すご…

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

お小遣いも欲しかったけど、
何より相性がよくて、
私の方から
連絡したことも
多かったのよね…





本当に僕にとっては
父親のような存在なんだ。

昔、カエルを飲み込みそうになって
死にかけた時に、
おじさんが助けてくれたんだよ。

はは、そんなこともあったな。
あの小さかった
お前が結婚するとは、
不思議なもんだ。

雰囲気は、
今のところ
悪くないわね……。



あ、そうだ。

お土産が……

車に置いてきたかも！
すぐ取ってくるよ。

お気をつけて。

あれ、どこ行った？

sよ、
お前は玄関から
手ぶらだったぞ。
変わらず抜けてるな。

トモミ、ごめん！
おじさんに僕の昔
聞かせてもらって！
じゃ、すぐ戻るから！

じゃ、
すぐ戻るから！

あの天然…
適当に目を
つぶってたけど、

こういう時に
限って……！

あはは、sさんは昔から
物を忘れる方だったんですね。

前に車の鍵を
会社で忘れて、
週末に車が使えなか
ったことを思い出しました。

そうね、
こっちから話し続けて
思い出す暇も
与えなければいいのよ。

うっ…
手が、勝手に…！

結局車が使えなくて、
近くの小さな公園に
行ったんです。

レジャーシートを
いくら探しても見つからなくて…
でも、よく考えたら
車に入れっぱなしだったのを
思い出したんですよ。

私はね…

君のこと、
覚えてるんだよ。



ガチで終わった

昔みたいに、
ちよっと動揺すると
すぐ顔に出るんだな、
君は。

な、なんのこと
ですか……

キコ



君とは気が合うと
思っていたのに。

突然連絡が
途絶えて驚いたよ。



それがこんなに
大人びて……

私は
本当に嬉しいよ。

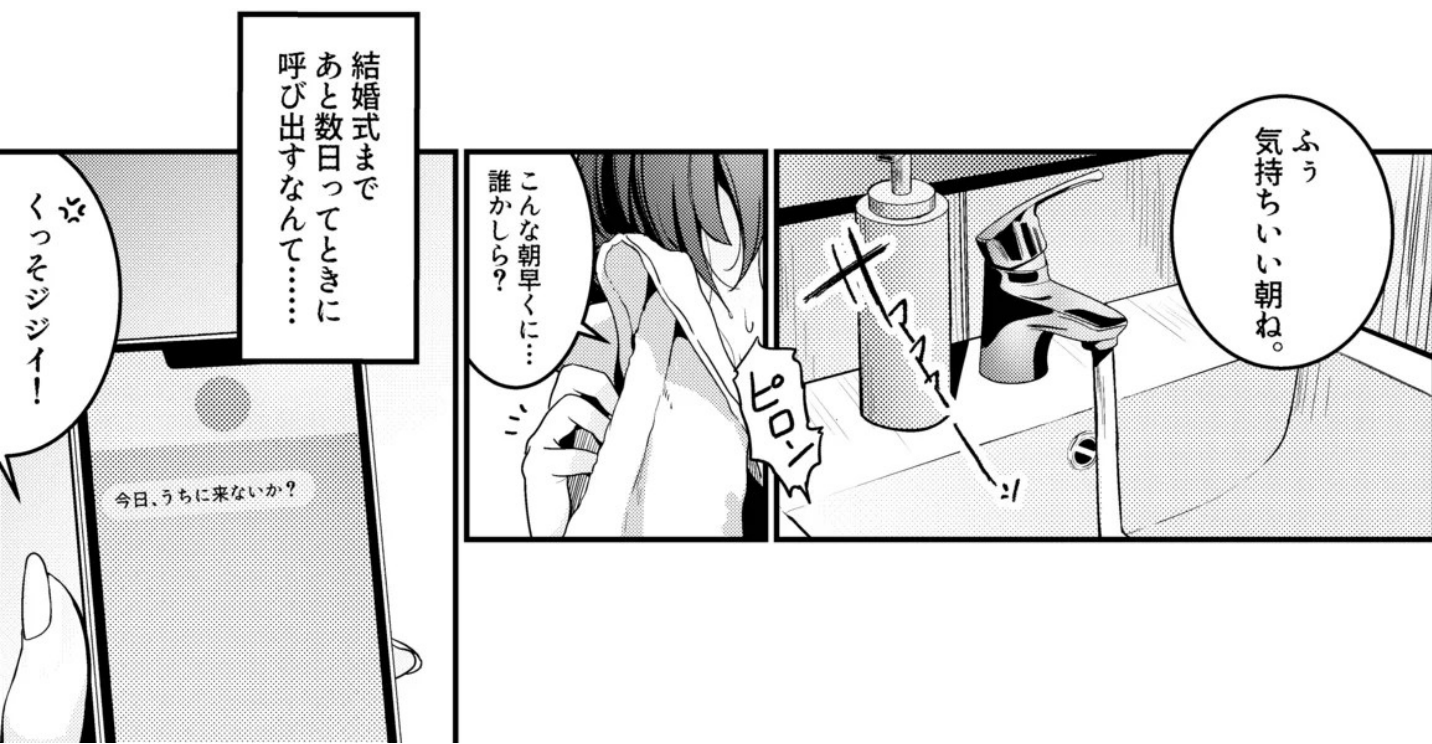


このクソジジイ……
ほんと図々しいし
無駄に元気だし……。

また始めても
いいんじゃないか？
どうだい？

えっ……
そ、それは……。

s君には
内緒でさ……。



仕方なく来
ちゃったけど…

いきなり当日に
呼び出されるのは
ちょっと
困りますけど……

無事に
結婚さえできれば……

悪かったな。
来てくれて
ありがとう。

こっちだよ。

うっ…
これで
本当にいいの…?

君が来ると思って、
布団も
洗っておいたんだ。

失礼な
口のきき方も
相変わらずだな。

今日はよろしく頼むよ。

君、昔より胸のあたり、
ずいぶん成長したな。

何かツプ
くらいあるんだい？

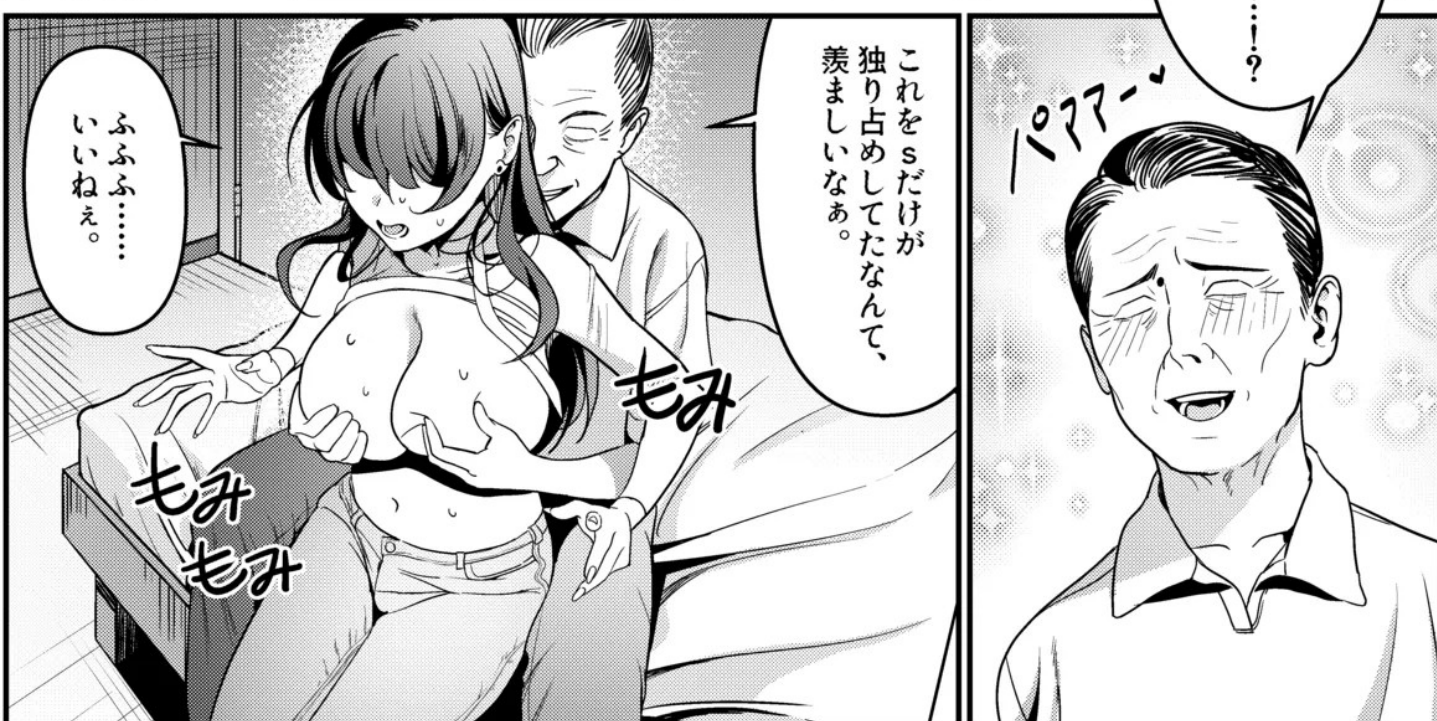
G…

おお！
見せてごらん。

はい

s君には
絶対秘密に
してくださいよね！！

ははは、
その点は心配いらんよ。



あ、おじさん
そんなの……ダメ……

大きくて柔らかくて……
奥の方に感じる何かが
また……たまらなく
可愛いじゃないか。

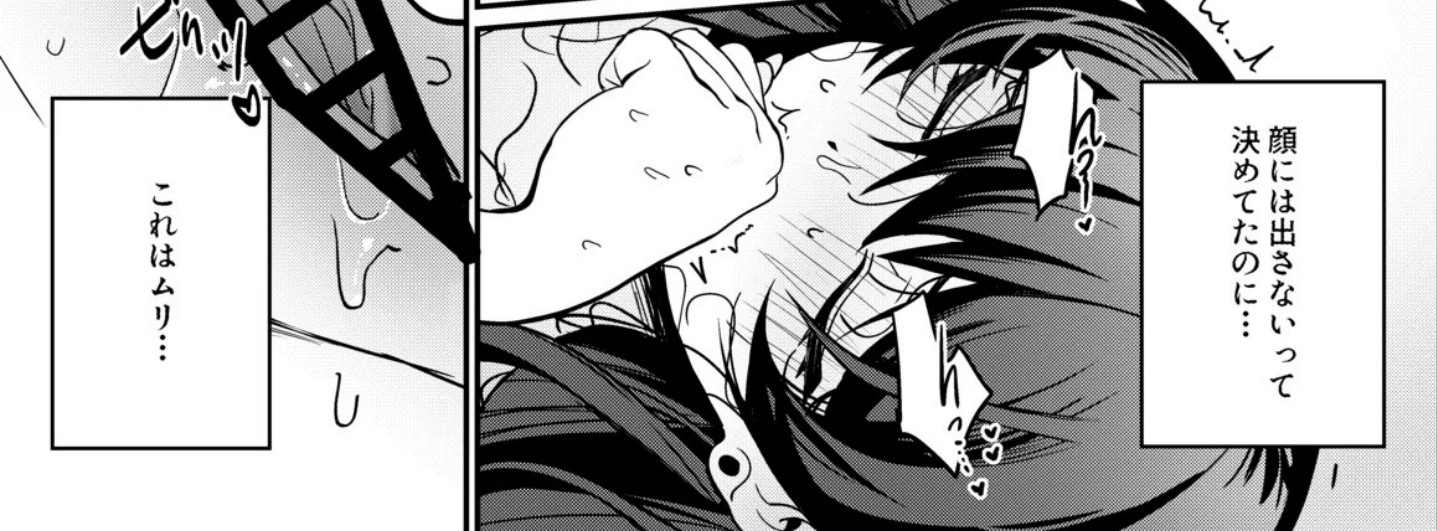
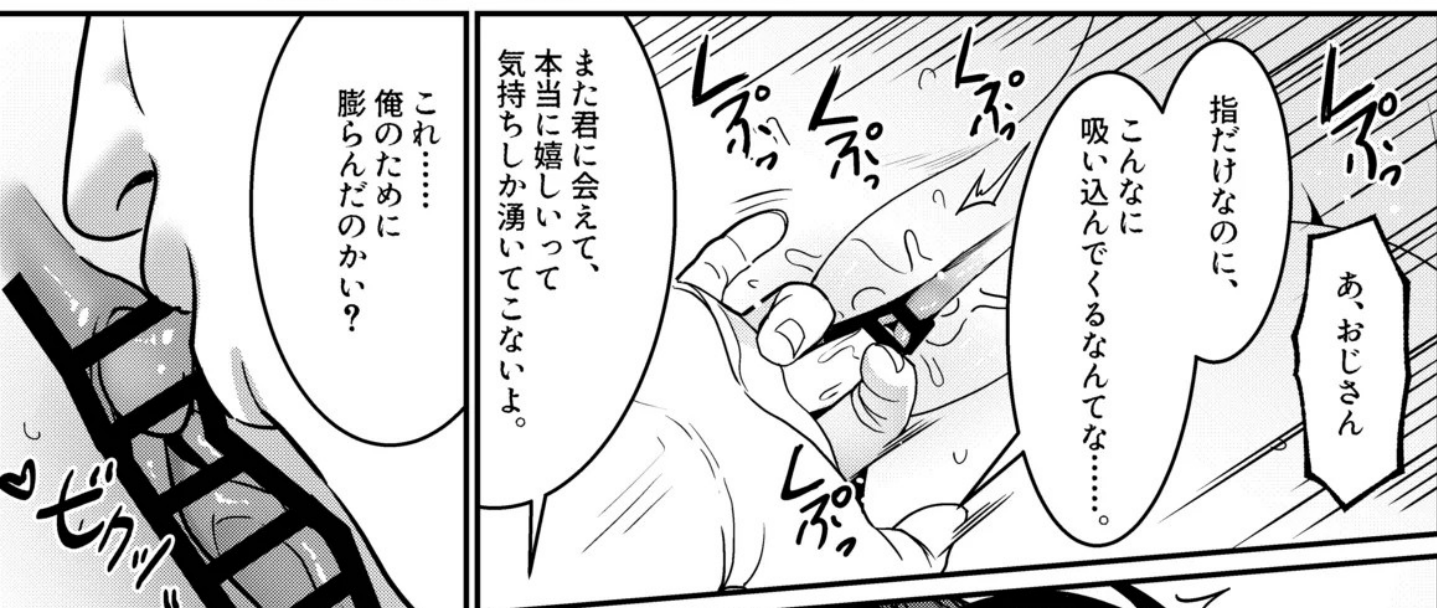
思わず声、
出ちゃった……。

おじさん……
もうやめて……。

この人……
手つきが慣れすぎて……

もう我慢できん……

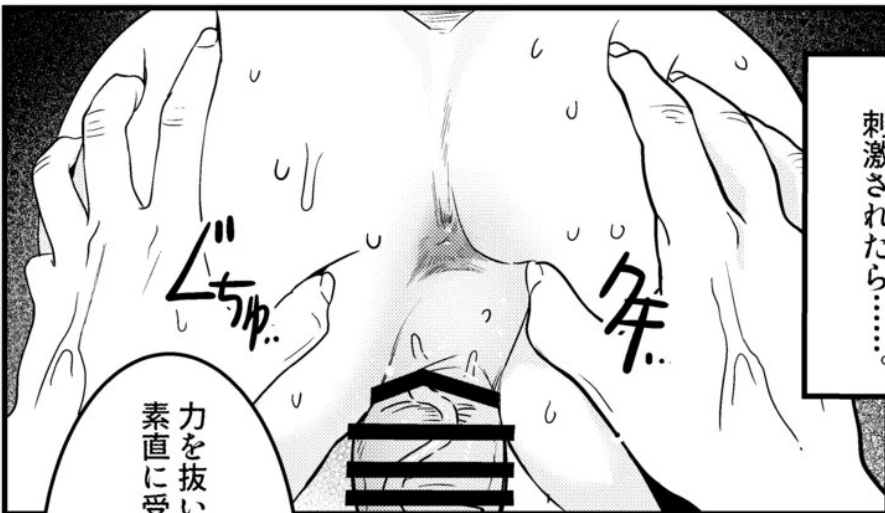
あの日以来、
ずっと溜めてたんだ。













めちやくちやに
突っ込まれたら…

だ…だめ

な、何これ……
火照って……

あゝ
あゝ
あゝ

ほんほんほんほん

ほんほん
ほん

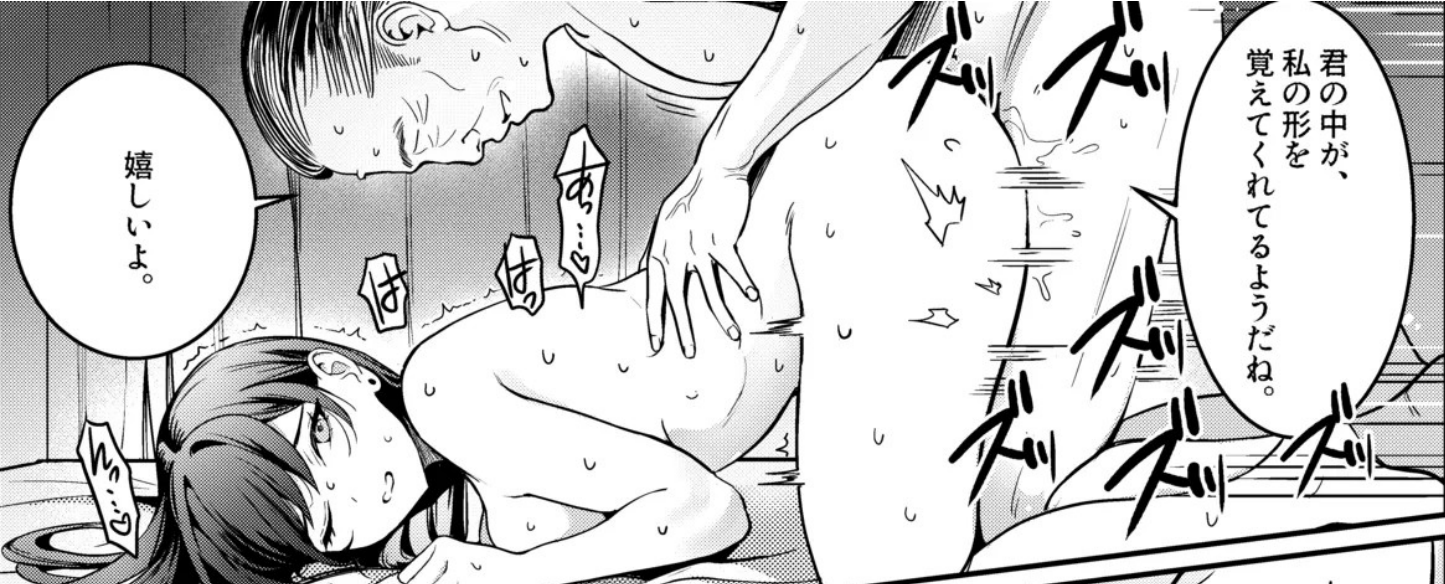
あゝ
あゝ

んっ♡

ようやく
本調子ってとこかな？

ぽろぽろ

ん
ん
ん







最後にいい思い出
作れたな。
結婚生活、
楽しめよ。



抜く時に
そんなに
力入れられたら、
困るよ……。

何はともあれ、

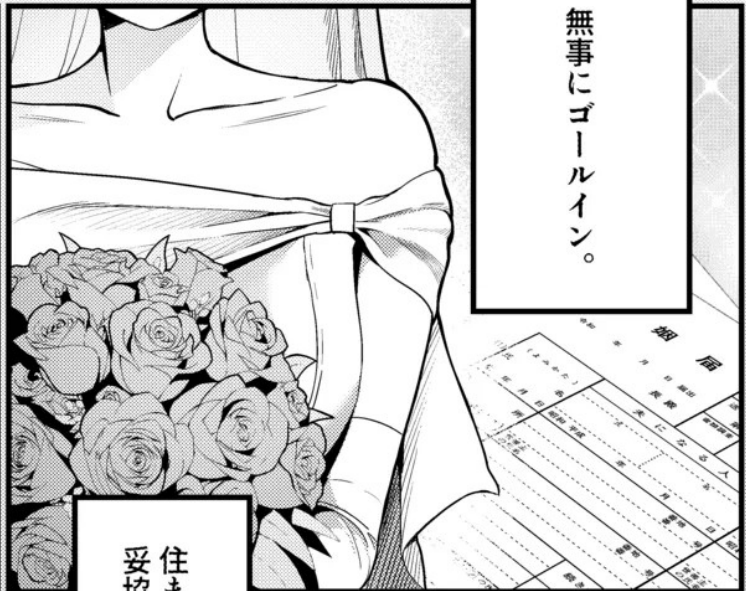


トモミの腰使い、
マジで
ヤバいんだよ。

☆
私が動かないと
終わらないし…
ほんと、使えない男……。

もう…
やめてくださいよ…
でも、嬉しい……♡

夫との夜の相性を
除けば、ね。



無事にゴールイン。

住まいも収入も
妥協範囲…

まあ、悪くない。



欲求不満で
おかしくなりそうになって、
気付いたら……

トモミ……

いきなり来るなんて、
びっくりしたよ。
どうかしたのかと
思ったじゃないか。

本能のままに、
この人に触れてた。







まずはココを
軽く刺激して……

そのあとで、
程よく触れてあげる。



勢いよく差し込む。
これを繰り返せば……



優しく抜いて、



もう限界だ……！

うわっ……
こ、これは……
出る……



もう少しゆっくり……
ううっ……！

あっ……
それは……

出ちやう！



前にも思ったけど...

は！

おじさん、
まだまだ現役ですね？

は！は！

顔、
けっこうついちゃいましたよ。
ティッシュ？

は！は！

...

おじさん？



え？

うそ
もうまた
勃ってるの？

トモミを見ると...
自然と、ね。

ええっ

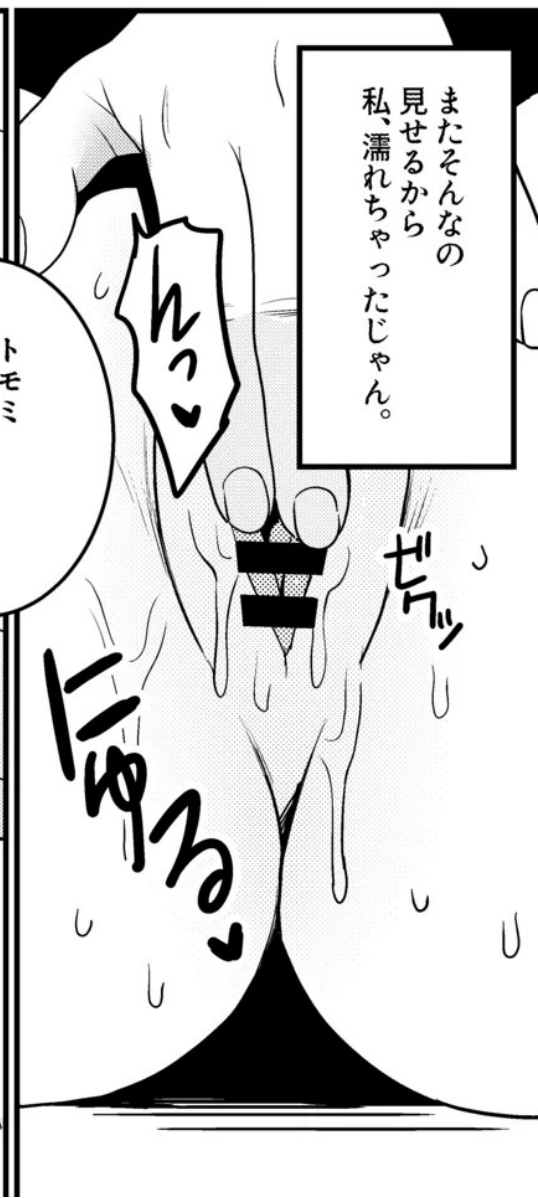


おじさんと、
するの...
嫌いじゃないんです。

トモミ
どうして....

グ

ちゅん



またそんなの
見せるから
私、濡れちゃったじゃん。

んっ

ニャる



また来る

だから
こんなに
濡れてたんだね。

私をここに戻させた
あの快感が。

ドギドギ

ヌルル



前より抵抗が少ないな…
もう私のに
慣れたってことかな？

だって
おじさんの、
大きいから。

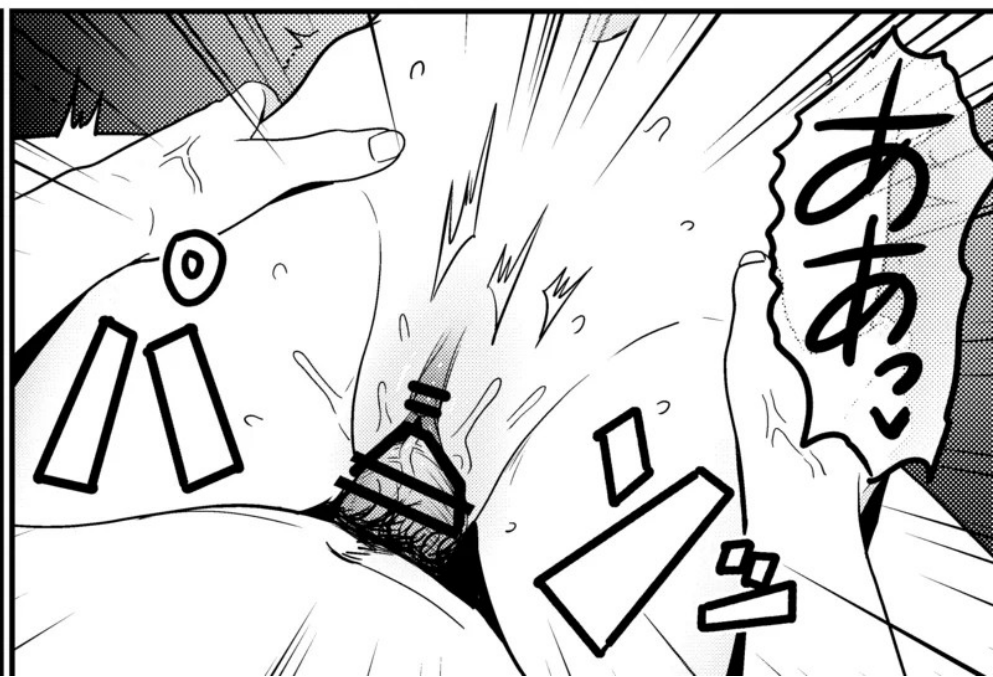
あつ、あと
中には絶対
出さないでくださいね。

ゆっくりなのに
どうしてこんなに
感じちゃうの……？
中に出されたら
本当に、妊娠しちゃう。

ゴッ

グッ

グッ



前は
キスさえ
拒んでたのに

今日は、
自分から
舌を絡めてくるとはね。

唇を交わすだけで
どうして、
下まで疼くの

ぬる...

ちゅる...
ちゅる...

ん...
ん...

びゅん...
びゅん...

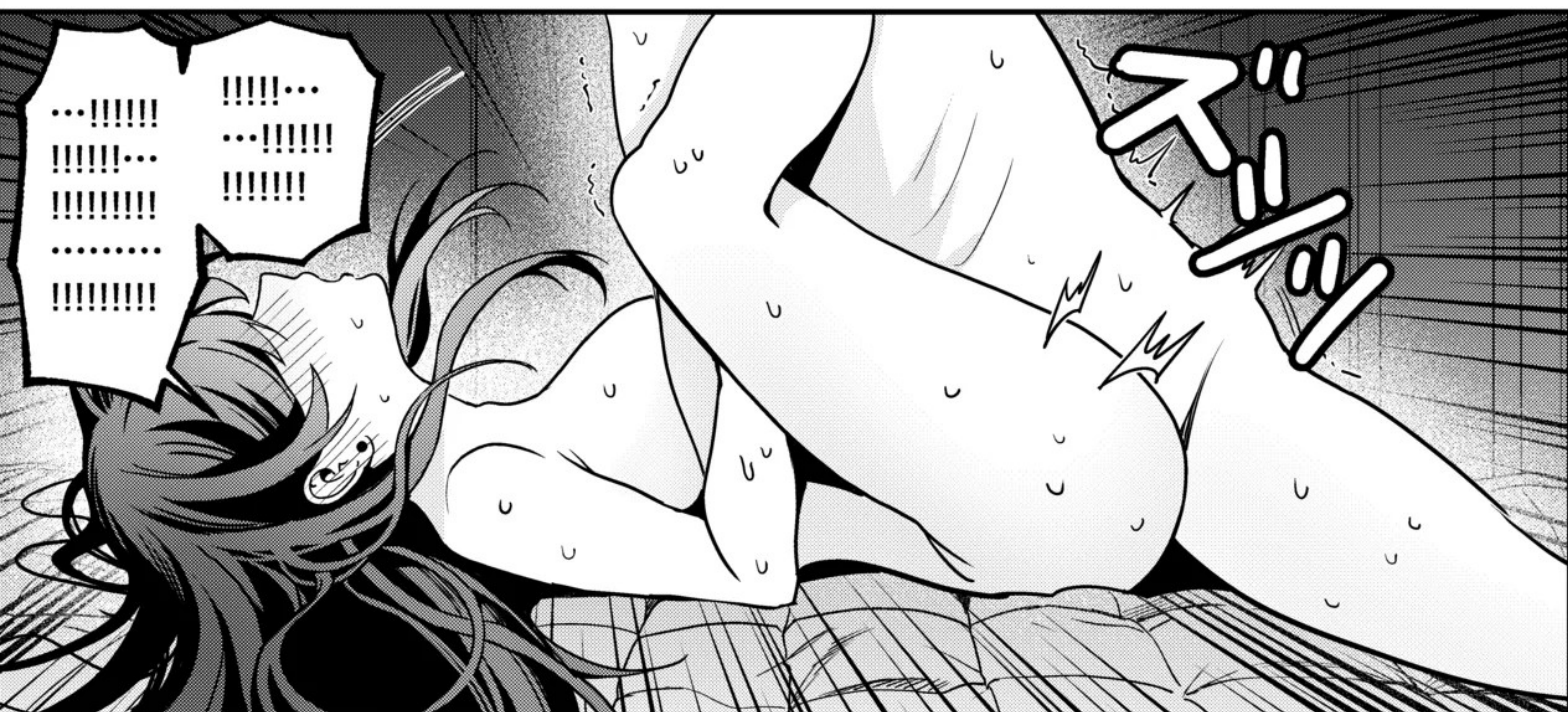
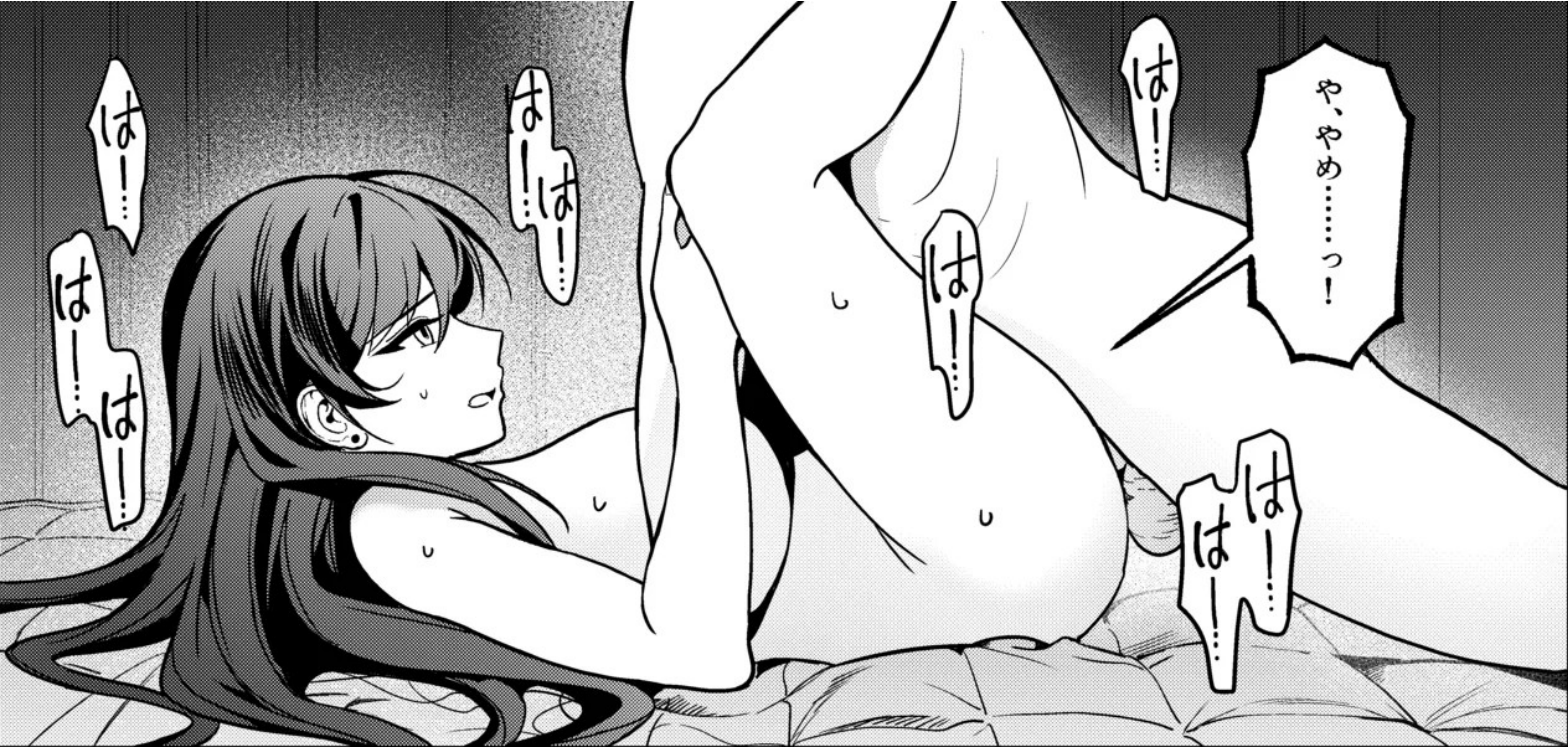


え.....?

また、
奥まで届いた

こらえきれん...!





来る……！



ぬぽ

は は は は は は は は は は

私は
また

一線を
越えてしまった。

はー！ はー！

はー！

はー！

ああ
気持ちよすぎて
中に……
大丈夫だろう？

今日は、
危ない日じゃ
ないんだよね？



雨の日も、
雪の日も、

これ…
ほんとにすご……

トモミは
欲が深いな。

おじさんも、
負けてないくせに

時間なんて関係なく
欲を満たすために、
私は通った。

その頃、sくん

あ、すみません、
資料が……

あ、
ありました！

じゃ、
すぐ修正します！

この関係が
間違っているってことは、
自分でもわかってる。

ずいぶん
頻繁に来てるね。
大丈夫かい？

でも……。

やめられない。

その頃、sくん_2

トモシ……

今日も遅いな。
仕事が
忙しいのかな……



今、何時だ？

午前5時
ちよっと前です。

4:57

おととと

今日はちよっと
外せない予定があつてね。

君と一緒にいると、
ほんと…
時間が飛ぶように
過ぎてしまうなあ。

ぬぽん

急に
出ることになって
悪いね。

大丈夫ですよ。
少し休んでから帰りますから。

名残惜しいけど、
最近あんまり
家を空けすぎたし…
そろそろ戻らなきゃね。

あ、そうだ…
今日、私の誕生日だったんですね。

そうなのか。
そりやおめでたい。

俺もちょうど
出かけるところだし、
Sくんのもとへ帰って、い…



パーン



Sさんには、
なんて言えば
いいんでしょうね…。

「友達と過ごしてた」っていうのも、
もうバレそうだし…
あのパターン、
前に使っちゃったし。

今回は実家に帰ってた…
ってことにして、
実家の方にも話を
合わせておいた方が
いいかもしれませんね。

どう思います？

…トロ



?



ちゅ

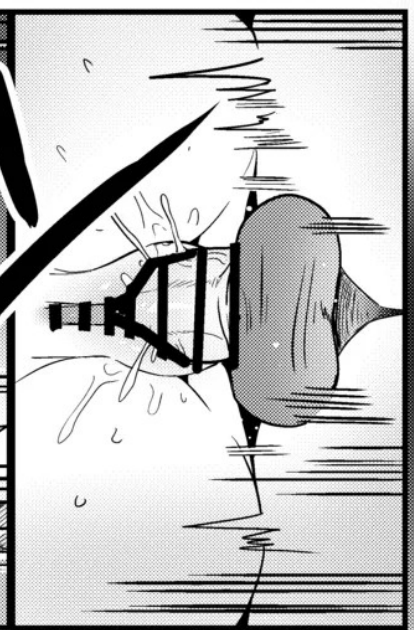
ちゅ



ちゅ

はあ

はあ



えっ...こんな急に...?

ちゅ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

こんなになんてすぐ…
刺激が
強くなってる…!





出る

やっぱり

この人からは、

ト
チュッ

あーっ
あーっ



もう
逃れられない…。

はあ

はあ

はあ



終わったあとも、
何も考えられなかった…。

私…
本当にこれで
よかったのかな…。





『作中では見られない、想像上の三人の姿。』

描きたくて入れてみたイラストです。

if...



初めて制作したオリジナル同人誌で、
まだまだ拙い点が多々ございますが、お楽しみいただけましたら幸いです。
次回は、より面白く、ページ数も増やし、画力の向上もお見せできるよう努力してまいります。
少々欲張りかもしれませんが、不可能なことではないと信じ、今後も挑戦を続けていく所存です。

ご購入いただき、誠にありがとうございました。



本当の新婚生活は、おじさんの家で始まっています♡

サークル DAMDA
発行者 DAMDA
発行日 2025.8.17

印刷 株式会社サングループ

Twitter <https://x.com/kainss701>